

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【日進中学校】

学力向上
アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策	
重点的に育成する 資質・能力	・ICTを文房具として自律的に活用し、互いに「話し合い、教えあい、伝えあう」ことで、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させる力 ・GSやデジタル端末で可視化された多様な考えを比較・検討し、自らの思考を深めるとともに、根拠を明確にして論理的に表現する力 ・デジタル教材を活用し、自らの習熟度や課題を把握し、自律的に学びを調整・最適化していく力	
↓		
実施する学力向上策 【時期・頻度】	・ICTを活用した形成的評価(単元テスト等)と連動した「教えあい活動」の推進を図る(通年) ・GSや数学を中心として、授業内でスタサプやドリルパークを活用した時間を計画的に設け、自分にとって最適な学習環境を選択できるように促す。(通年、各単元) ・オンラインプラスやgoogle classroomを利用した、意見の共有ならび共同作業を通して、話し合い活動の充実を図る(通年、各単元)	

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握)
↓		
今年度の成果と 次年度の課題		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果	国語、数学、英語の全教科において、平均正答率(またはIRTSコア)が昨年度と同様に全国および埼玉県の平均を上回った。特に国語の「文脈に即して漢字を書く」問題では、全国平均を大きく上回る極めて高い成果が見られた。 一方で、英語では「まとまった内容を読み取る」力に強みが見られるものの、「自分の体験や感想を論理的に構成して書く」問題において全国平均を大きく下回るなど、表現力・記述力に課題が残った。	
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	全体的に「学習習慣」および「学びの自己調整」に関するスコアが非常に高く、単に長時間学習だけでなく、自らの学び方を工夫し振り返りを行う力が身に付いている。 一方で、ICTの利用頻度・活用度については全国平均を下回っており、日常的な「文房具」としての活用や、自らの学びを最適化するためのルールとしての利活用には、まだ大きな伸び代がある。	

④	さいたま市学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果		
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト等の分析・活用 ③中間評価を経ての取組 ④調査結果を活用した授業	

③	中間評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	オンラインプラスやGoogle Classroom等を活用し、効率的な授業展開や意見共有・深め合いの機会を昨年度以上に創出することができた。特に国語や数学では、「テストパーク」等のICTを用いた小テストを複数回実施し、生徒が自身の習熟度を客観的に把握した上で教え合い活動へつなげる工夫が定着しつつある。 また、生徒自身が生成AI等を自律的な学習支援ツールとして活用する場面も増え始めている。今後は、日常的なICT活用を定着させつつ、英語等の表現・記述に関する課題改善に向けた効果的なICT運用を推進していきたい。
	B	
↓		
学力向上策の 見直し	変更なし	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所